

保護司会だより

黒松

第78号

令和6年7月5日発行
柏崎刈羽地区保護司会
TEL(0257)23-8615
柏崎市豊町3-59
総合福祉センター内



7月は「社会を明るくする運動」強調月間です

柏崎の象徴「鷗が鼻からの米山・米山大橋」 撮影／保護司 佐藤俊男



新潟保護観察所 所長

銅島 博之

地域社会に貢献する
更生保護

地域の皆様には、日頃から更生保護行政をご支援いただき、ありがとうございます。

更生保護は、犯罪をした人たちが、再び犯罪等に陥ることのないよう、社会の中で必要な処遇や支援を行っています。そのような人の中には、被虐待歴、貧困、学習機会の不足、高齢・障害、依存症など様々な問題を抱えている人たちが少なくありません。その人たちが立ち直ろうとするとき、地域の方々のご理解の下、地域で取り残すことなく、支援者が連携し、必要な支援を行うことにより、立ち直りを助け、再び罪を犯すことなく生きていくことができると思います。

更生保護は「地域社会に貢献する更生保護」を目標として掲げました。犯罪をした人たちに対する「息の長い支援」を実現するため、自ら必要な援助を行うとともに、地域の連携体制の整備に取り組んでまいります。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

「社会を明るくする運動」 強調月間に寄せて



「社会を明るくする運動」
柏崎刈羽地区推進委員会会長
柏崎市長

櫻井雅浩

柏崎刈羽地区保護司会会員の皆様におかれましては、日頃から更生保護活動や犯罪予防活動にご尽力いただいておりますことに對しまして、改めて感謝申し上げます。

「社会を明るくする運動」と聞いて二つのことを思い出します。柏崎電気工事組合と池波正太郎の小説「鬼平犯科帳」です。

当会保護司会横田会長からは電気工事組合としても毎年街灯のご寄付などをお願いいただいております。文字どおり柏崎を「明るく」していただいております。また「鬼平」こと長谷川平蔵は、「人間とは妙な

生きものよ。悪いことをしながら善いことをし、善いことをしながら悪事をはたらく。心をゆるし合うた友をだまして、その心を傷つけまいとする」と語っています。

明るい社会、暗い社会、正義、悪。私たちは紙一重のところに暮らしているのかもしれない。そのことを私自身も自覚していきたいと考えています。そして、もちろん明るい社会、正しい社会から一旦離れた人たちをもう一度、と願いながら力を合わせていかなければなりません。

本地区においては、保護司会を先頭に、



各町内会、民生委員・児童委員、PTAなど地域内関係者の力を結集し、自立・更生を支え、学校とも連携し、各地区でのミニ集会の開催などの事業に取り組んでおります。市としても昨年度からスタートした柏崎市第二次人権教育・啓発推進計画の人権課題に「刑を終えて社会に戻ってくる人の人権」を追加し、再犯防止対策の取組を進めているところで

す。
柏崎刈羽地区が「明るい」、「正しい」社会になるよう皆様のご理解とお力添えを何とぞよろしくお願い申し上げます。

愛の協力運動会費会計報告

ご協力ありがとうございました

令和5年度皆様からお寄せいただいた「愛の協力運動」新潟県保護観察協会会員募集による会費は、県全体では**72,345,994円**で、次のような事業に使わせていただきました。

内訳

- 1 “社会を明るくする運動”をはじめ通年の犯罪・非行防止、社会浄化活動費
36,096,439円
- 2 更生保護施設への助成及び保護観察を受けている者への更生援助金
2,373,615円
- 3 研修・研究・矯正施設等視察諸経費
10,813,117円
- 4 関係機関・団体との連絡調整費
1,268,261円
- 5 更生保護協力団体(更生保護女性会、BBS会、健全育成団体等)への助成費
7,887,445円
- 6 運動諸経費(趣意書作成費、郵送費、連絡費、人件費等)
13,907,117円

「愛の協力会員」募集のお願い

更生保護法人 新潟県保護観察協会
理事長 花角 英世

7月に入りましたら、各町内会長さんを通じて会員募集のお願いに参りたいと考えています。

ご協力をよろしくお願い致します。

この会員募集についての照会は下記宛にお願い致します。



柏崎刈羽地区保護司会
会長 横田 良英

☎ 0257-23-8615 (保護司会事務局)

◎主催

「社会を明るくする運動」

「犯罪や非行を防止し、立ち直りを

支える地域のチカラ」

新潟県推進委員会

法務省・新潟保護観察所

◎応募規定

(1) 応募資格

小学生及び中学生

(2) テーマ

「社会を明るくする運動」の趣旨を踏まえ、日常の家庭生活、学校生活の中で体験したことをもとに、犯罪・非行のない地域づくりや犯罪や非行をした人の立ち直りについて考えたこと、感じたことを題材としたものとしします。

(3) 原稿の枚数

400字詰め原稿用紙3〜5枚程度

(4) 応募先、締切り

〒945-1004

柏崎市豊町3-59

柏崎市総合福祉センター内

令和6年度「社会を明るくする運動」 作文コンテスト実施要綱(抜粋)

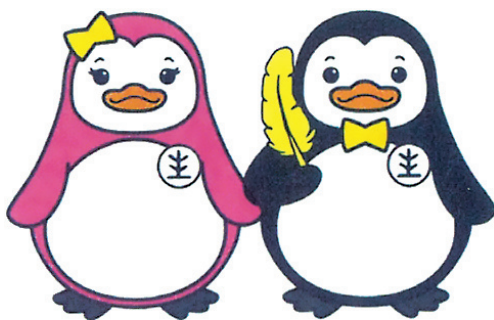
柏崎・刈羽地区保護司会事務局

(☎ 23-8615)

締切り 令和6年9月12日(木)

◎表彰

柏崎市および新潟県より、それぞれ表彰を行います。



更生ペンギンの
サラちゃん

更生ペンギンの
ホゴちゃん

薬物乱用防止教室を終えて



保護司 星野 正仁

私は保護司として、柏崎市内の高校において薬物乱用防止教室を実施しました。この教室は生徒たちに、薬物の乱用は、身近な出来事であること。一度でも乱用したらやめられない依存性の怖さ。犯罪であることの認識と影響について正しい知識を提供し、健康な生活を促すことを目的として行われました。生徒たちは、とても真剣に耳を傾けてくれました。

教室では、まず薬物乱用が及ぼす健康への影響について、具体的な事例やデータを提示しました。これにより、薬物が

身体や精神に与える悪影響と依存性が強く、一度でも使うとやめられなくなることにについて生徒たちが理解を深めることができました。また、薬物乱用が引き起こす社会問題や学業への影響や重い犯罪となることについても説明し、生徒たちにより広い視野で問題を捉える機会を提供しました。

次に、薬物乱用から身を守るための具体的な方法やリスク回避の手段について解説しました。さらに、アルコールの影響やオーバードーズ（一般市販薬の過剰摂取）違法薬物

（特に大麻「マリファナ」）に関する情報を正確に得る重要性や、適切な情報源の利用方法についても指導しました。加えて、同級生や周囲の大人への相談の重要性や、リスクの高い状況からの断り方、距離を保つ方法についてもアドバイスを行いました。

教室の最後には、生徒たちからの質問に答える時間を設けました。薬物乱用に対する理解がより深まり、自分たちの将来像への悪い影響や一回でも絶対にやめられなくなってしまう怖さの認識が深まったように感じます。

今回の教室は、生徒たちの薬物乱用防止の正しい知識と意識を高める良い機会となったと思います。薬物乱用に対するリスクや危険性を正しく認識することで、生徒たちが健康で明るい未来を築く一助となることを期待しています。断る勇気「薬物乱用はダメ・ゼッタイ」を合言葉に今後も青少年の健全育成に取り組んでまいります。



更生保護は地域とともに

保護司 田村 秀一

更生保護活動は、「犯罪のない社会づくり・犯罪の再犯防止」の目標を掲げ実施されています。我が国における犯罪数は、コロナ禍にかけて減少しておりましたが、その後また重要犯罪や特殊詐欺等を含め増加傾向にあります。

さらに、再犯率は全犯罪数の50%近くあり、ここに大きな課題を抱えています。再犯防止の一つとして、犯罪者の雇用や居住などでの、地域による理解と協力が大切だと言われています。

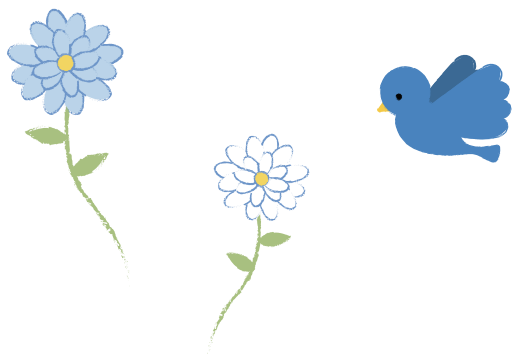
そんな関係で当保護司会でも、国や市と連携し、「社会を明るくする運動」等を通して、地域の皆様への理解や協力をお

願っています。具体的な活動はスーパーマーケットや、学校等でパンフレットを配布して広報活動をしたり、「社会を明るくする運動」の募金を市民の皆様にお願ひしたりしています。

犯罪は地域社会の中で発生し、犯罪を犯した人は、地域社会の中で更生していきます。更生保護活動は、地域の方々の理解と協力の上に成り立っています。ここに、更生保護活動は、地域と共にという考え方が生まれてきました。

昨年は、そんな活動の一環として枇杷島・半田地区の「民生委員・児童委員協議会」に招かれ、更生保護の活動を紹介し、理解と協力をお願いしました。

この会には、二人の地区担当保護司も参加し、活発な意見交換を行い、相互理解も深まりました。



法務大臣表彰を受賞して



保護司 多田 誓
た だ ち かい

先輩住職からのお声がけにより、保護司というお役目をいただいて20年以上になるといふことでしようか。あまりの年月の経過スピードの速さに改めて驚いています。

様々な要因で保護観察の対象になってしまった方々と関わりを持たせていただきました。そこには色々な境遇があり、個性がありました。限られた期間だけのお付き合いですが、面接時は緊張します。どんな人だろうか、不安もありますが、苦悩する生身の人間と関わりを持つことは、私自身にも人生勉強の機会が与えられていることだと感

じますし、わずかながらでも社会に協力させていただける機会が与えられていることと思つて、できうる限り務めさせていただきます。ただこうと思つています。

保護司としての立ち位置



柏崎刈羽地区保護司会
副会長 永寶 和彦
な が と み か ず ひ こ

縁ありまして平成16年4月1日に保護司を拝命し、早いもので20年になります。その間、先輩、同僚保護司の皆様のご指導の下、力不足ではありましたが、何とかここまで務めてきました。

昨年、思いもかけず法務大臣表彰をいただくこととなり、改めてその責任の重さに身が引き締まる思いです。真宗大谷派僧侶としての立場を併せ持つ者として、保護司の仕事にどのような向き合っていけば良いのかは、私にとつての大きな課題でもあります。保護観察者の更生のために指導していく、などという力は無いにし

ても、相手と同じ目線に立ち、共に考えながら進んでいくことが、私の保護司としてできる唯一のことではないかと考えています。

「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」という人間の姿を言い当てた親鸞聖人のお言葉を今一度我が身に重ね合わせ、今後とも保護司の職責を果たしていきたいと思つています。





「新任のあいさつ」

保護司 横田敏盛

令和5年10月に保護司の委嘱を受けました。保護司の役割や活動に責任を感じながらも先輩の保護司の皆様からの確な指導や助言をいただき、保護司の活動に取り組んでいます。

私は、長年特別支援教育に携わってきました。それぞれの子どもたちの特性に応じた適切な支援を行うには、周囲の正しい理解と関わる人の連携した支援が欠かせないことを感じてきました。私たちは皆多かれ少なかれ、何らかの支えを受けながら生活しています。保護司の活動にもこれまで学んできたこと、経験してきたことを生かしていけるのではないかと考えます。

誰しも本来、より良い生活を送りたいという願いを持っていきます。対象者との関わりにおいて、丁寧に話を聴き、思いを受け止めること、しっかりと向き合いながら共に考えていく姿勢を大切にしたいと思っています。

これからの保護司の活動を通して自分自身を磨き、その任を果たすことができるよう努めます。



「更女」って何？

柏崎刈羽地区更生保護女性会

古川久子

この度、更女に仲間入りさせていただくこととなりました。

それにしても、私の第一声は「更女って何」でした。更女との出会いは、私が病気をした体験を役員の皆様にお話しする機会をいただいたことでした。女性同志、病気に早く気付き、勇気を持って病気に対応し、予防していきましようという気持ちからでした。そして、「更女」とは「更生保護女性会」と知り

ました。日頃、保護司の方々が非行や犯罪に関わった人たちの支援にご苦労されていることは何となく知っていました。保護司会と更女の皆様は、連携し声をかけ合い支え、支えられているのですね。

地域の中では、非行犯罪から

立ち上がろうと頑張っている人たちの応援を模索していることと思います。仲間が増えたり、お互いに話し、気持ちを共有したりしていけたら安心な地域づくりの「力」となるのではないのでしょうか。



役員研修会



人は皆支え合って

公益財団法人ブルボン吉田記念財団理事
ドナルド・キーン・センター 柏崎館長

吉田眞理

ドナルド・キーン・センター 柏崎は、昨年9月に開館10周年を迎えることができました。

この施設を運営する財団の前身は、1976年に私の父、(株)ブルボン三代目社長の吉田高章が、創業50周年を記念して設立した財団法人吉田奨学財団です。そして2013年、現社長の吉田康が公益財団法人への移行認定を受けて、公益財団法人ブルボン吉田記念財団が設立されました。生まれ変わった財団は、新たにドナルド・キーン・センター 柏崎の運営を事業の柱に据え、従来の奨学事業を継続するとともに、文化・芸術・スポーツを対象とする助成・協賛事業を積極的に手掛けて今日に至っています。

更に昨年は、財団設立とドナルド・キーン・センター 柏崎開館10周年記念事業の一つとして、「公益財団法人ブルボン吉田記念財団文学・平和アワード」を立ち上げました。

それはドナルド・キーン・センター 柏崎を見学したり、キーン先生の著作等を読んだりすることに、キーン先生の思いを感じるのと同時に、社会や自分の課題を再発見し、日本文学はもちろん、平和活動に参加した体験や日本の文化・地域の伝統行事などについてまとめた文章を審査対象として募集させていただきました。優秀なものを表彰するとともに広く公表していくものとして実施し、2月から5月まで作品募集をしたところ、

160作品もの応募をいただきました。厳正な審査の下、各部門の最優秀賞・優秀賞の受賞作品を決定し、その作品集を発行させていただきました。

ドナルド・キーン・センター 柏崎の誕生は、キーン先生が幻の古浄瑠璃「越後國柏崎弘知法印御伝記」の300年ぶりの復活初演を発案。それを受けて、ご養子のキーン誠己さんが、その相談に柏崎に來られたことがきっかけでした。中越沖地震の大変な時期にもかかわらず、「游文舎」の方々を中心にその実現にご努力いただいたことに始まります。

そして、開館からの10年は市民団体、ボランティア組織、多くの企業、二つの大学、市役所等々、柏崎の多くの皆様の支えを抜きに語ることはできません。施設名に「ドナルド・キーン」という世界的な名を冠していますが、それは多くの方々のさり気ない優しさの集合体の象徴でもあると私は考えています。

キーン先生は「国際人」を、

「貴方と私は同じという感覚を持つている人」と定義されました。生き方や考え方は違っても、相手をリス・ペクトし、互いに傾聴の心をもって共に生きていく姿勢が、幸福や平和につながるという意味だったのだと思います。

これから次の世代にキーン先生の業績や人となり、平和を希求する心などを承継していくことを目標として今後も頑張つて参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

